１．実施概要

（１）日時：平成２４年１０月２６日（金）　１４：００～１７：００
（２）場所：長野市勤労者女性会館しなのき　２階ホール
（３）テーマ：「地域特性を活かしたまちの顔づくり」
～地域資源を活かしたまちの顔づくりとにぎわい創造に向けた取組～
（４）進行

14:00　開会
14:05～14:10　開会の挨拶
・長野市長　鷲澤 正一
14:12～14:42　基調講演
・中心市街地商業活性化アドバイザー・地域活性化伝道師　服部 年明
14:45～14:55　国からの施策紹介
・内閣府地域活性化推進室次長　田中 博敏
14:58～15:08　自治体からの活用事例の紹介
・長野市長　鷲澤 正一
休憩（10 分）
15:20～16:50　パネルディスカッション
・コーディネーター：服部 年明
・パネラー：（株）まちづくり長野タウンマネージャー 越原 照夫
長野市中心市街地活性化協議会長 北村 正博
経済産業省関東経済産業局産業部長 太細 敏夫
上田市長 母袋 創一　長野市長 鷲澤 正一
16:50～16:55　まとめ
・コーディネーター：服部 年明
17:00　閉会

２．開会の挨拶

- まちの顔である中心市街地の活性化に向け、日本の元気は地域からをテーマに各地域における先進的な取り組み事例等の紹介を通じて、地域はもとより日本全体の向上につながるよう情報を発信し共有していきたい。
- 本市は平成１９年に基本計画を策定し、これまで長野駅前の再開発事業の完了、中央通り歩行者優先道路化事業の工事着手、また祭り・イベントなど様々な事業を推進し成果をあげてきた。第二期でも長野新幹線の金沢延伸、善光寺御開帳を見据え、様々な事業への取り組みによりテーマである「心潤う歴史と文化がにぎわう門前都市・長野」の実現を目指している。
- 特効薬はないと思うが、各地域の実情や課題によって自ずと取り組むべき方向が浮かび上がってくると思う。このシンポジウムがまちづくりへのなんらかのヒントになれば幸いである。

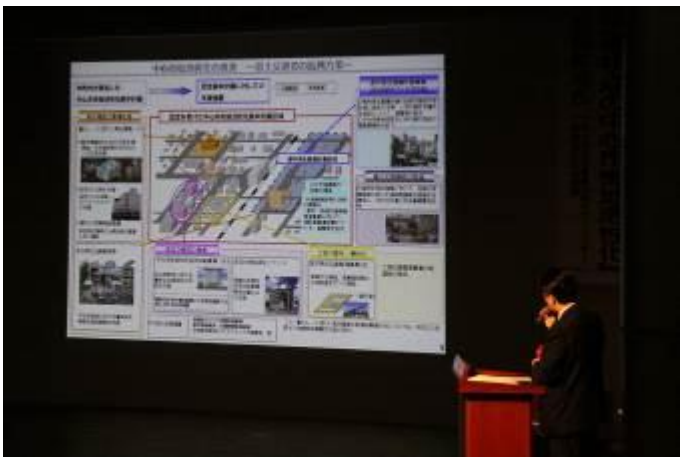
３．基調講演の概要

- 平成１４年の２月から１９年の４月まで長野市のＴＭＯタウンマネージャーを務めさせていただいた。ダイエー・そごうの撤退による中心市街地の空洞化という問題があり、その中

でこれからは地域密着型であり、そこに勤める皆さん方の生活というものを捉えたまちづくりが必要ではないかとご提案した。

- 高度成長から成熟社会へと入って、その中で必要なのは持続可能な開発、つまり人口減少を前提として中心市街地活性化を考えていかなければならなくて、イギリスも同様のことを行っている。郊外への立地を厳しく規制していく方向だ。
- 中心市街地活性化協議会というのは、行政が与えた基本計画を承認する、提言していくと全国で理解されているが、それは違って、協議会メンバーは法に基づく委員がメンバーで、中心市街地活性化を推進していく役割を担った人たちの集まりであり、連携して知恵を出し合い、どのようにまちを良くしていくかを論議していくものだということを今一度ご認識し取り組んでいただきたい。またタウンマネージャーは、利害が相反する関係者の中で、活性化の目的を理解していただき、共通認識をもっていただくために重要な役割を果たすものだ。
- 長野市の場合、商業視点の活性化から生活者視点のまちづくりへシフトした。商業ビルを建てればお客さんが来るという時代ではない。つまり住むところ、働くところ、学ぶところ、商うところ、憩うところ、また観光＝見るところという各種機能をまちなかに盛り込んで善光寺門前都市として培われてきた歴史や文化を重ね、まちの魅力を高めていくということをコンセプトに描いた。
- 一番重要なことの例として、事業をきめ、スケジュールをきめてダイエーのところに食品館をオープンさせることを確実にやったことで、周辺に１２棟のマンションができ８００世帯の方々がまちのにぎわいに大きく貢献してくれた。

４．施策紹介



- 内閣官房の施策では、中心市街地関連のほかに総合特区が２つあり、国際戦略総合特区、さらに地域活性化総合特区がある。これは規制法特例措置、税制・財政・金融上で総合的に支援措置をするというもの。
- 地域再生法があり、地域の自主的な取り組みにより地域活性化、雇用創出等の地域再生を支援するために地方公共団体が作成する地域再生計画を国が認定して支援するというもの。また構造改革特区があり、国の規制を地域を限定して改革するものがある。
- 特定地域再生制度という仕組みが創出されている。郊外型団地再生等の全共通の課題につい

て取り組むもので活用いただければと思う。さらに都市再生、環境未来都市、環境田園都市といった制度がある。

- 経済産業省の施策では、中心市街地魅力発掘創造支援事業が平成２５年度に新規である。同じく商業等中心市街地活性化等委託費事業がある。
- 国土交通省の施策では「暮らし・にぎわい再生事業」の中に都市機能まちなか立地支援、空きビル再生支援、にぎわい空間施設整備、まち再生出資業務などがある。まちなか居住の推進では、共同住宅の供給、居住再生ファンドの金融面の支援の仕組みがある。また、土地再生区画整地事業（都市再生区画整理事業）、身の丈再開発の推進、都市再生整備計画事業といったものがある。
- 総務省では、中心市街地再活性化ソフト事業、中心市街地再活性化特別対策事業（ハード事業）の２通りがある。
- 論点を深める意味で京都市長の話になるが、京都では駐車場の数を減らすという取り組みをしているが、施設整備が必ずしもにぎわいに直結していないのではないか、商店街の競争力支援事業はリーダー的な存在がいないとなかなか活用されない等の問題提起があったことを参考までに付け加えたい。

５．事例紹介

（長野市）

- 平成２７年春に善光寺御開帳、その３月までには長野新幹線金沢延伸があるということで、長野五輪のときに変わったように、それを利用して変わろうというのが私たちの考え方だ。
- まず大きな問題として中心市街地にあったダイエーとそごうがなくなり、ダイエーを市が買い取る形でＴＭＯとの協働で公益施設と食品スーパーを整備し「もんぜんぷら座」として再生した。子育て支援施設があり、国際交流イベント等も行っている。倒産したそごうは再開発により複合施設「トイーゴ」としてオープンさせ、また空き蔵の活用ということでテナントが入る「ぱてぃお大門」を整備。中庭では、マルシエなどのイベントが行われ、年間１４万人程度の人出がある。さらにまちの顔づくりとうことで長野駅善光寺口駅前広場の整備事業、中央通り歩行者優先道路化事業を発注、進めているところだ。
- 権堂地区は、昔からの商業地で長野一の繁華街だったが衰退し、現在はまちづくり協議会を設立してにぎわいづくりの事業を進めている。
- 長野駅は、如是姫像を広場に配置し、善光寺のイメージで大庇や列柱を駅のデザインに取り入れ、ここをいろんなことに使っていきたいと考えている。
- 中央通り歩行者優先道路化事業は、車中心から歩行者にやさしい通りにすることにより、まちなかの回遊性を向上させ中心市街地の活性化を図るものだ。

６．パネルディスカッションの概要

≪地域資源を活かしたまちの顔づくり≫

- （北村会長）協議会は「訪れたくなるまち、参加したくなるまち、歩きたくなるまち、住みたくなるまち」という４つの目標を掲げている。一例として商店街や市民と共に国定忠治まつりをやっているが、きっかけを作って、誰かがやるのではなく主体となって自分たちの手でにぎわいを作っていくことが活性化のために重要だと思う。
- （越原タウンマネージャー）地域の中で地域のお金を回していかないと地域が元気にならないというのが基本理念だが、商店街の皆さんができるだけ商売に没頭できる環境づくりをお手伝いすることが重要。とくにソフト事業では、時間がないところで頑張っているので支援したい。
- （長野市長）イベントをやることによって地域のコミュニティが少しずつできてくる。これは大きい。企業だけでなく学生の方とかいろんな人が祭りに参加している。そして物語性が必要だ。
- （コーディネーター）中心市街地が空洞化するとコミュニティが崩壊していく。培われてきた歴史や文化も忘れ去られてしまうという現状が見られる。とくに震災を機会に絆とかコミュニティの大切さが出てきた。
- （上田市長）上田市の資源としては城、川、多くの文化財、温泉、高原があり、「４００年の歴史を超えた城下町ルネッサンス」が中心市街地活性化のコンセプトだ。まちを６つにゾーンニングし、古いものの再生と新たなものの価値創造を組み合わせてまちづくりにチャレンジしようとしている。
- （太細部長）長野市と上田市は、人を集める仕掛けづくり、もう１つはその実現に向けた仕組みと環境づくりという点で共通しているのではないか。やはり首長さんの強力なリーダーシップが重要と実感している。
- （北村会長）長野おもてなし推進ネットワークを設立し、挨拶からというおもてなしの原点に戻り、リピーターを呼ぶ取り組みもしている。
- （長野市長）長野市にはいろいろな資源があり、それらを有機的につないでいくことが大事。善光寺、松代、戸隠といった観光資源と素晴らしい自然をどう活かすか。また“まち中観光”にも力を入れており、屋外彫刻の作品は毎年増えているほか、景観賞の表彰なども行いまちをきれいにする大きな原動力となっている。
- （上田市長）いかにまち中中心地へ地元住民に来てもらうか、また市外県外の方々がいかに魅力を感じて来てくださるかを考えるのが、市の基本スタンス。回遊策をどうするか。まち並みやムードをつくる仕掛けづくりもやっている。まちを桜一色にする発想もあるし、一方で定住自律圏の形成にも取り組んでいる。

７．まとめ

- （コーディネーター）行政と民間がいかに連携し、その価値を高めていくか、それがすごく重要だ。自らの業務価値、そこに住む生活環境価値、自らの資産価値も大きく、行政については税収も大きく影響を与える。培われてきた歴史や文化を受け継いでいく、地域コミュニティの絆を守っていく活性化が必要だろう。

８．閉会